香教連新聞　第463号　2018年（平成30年）　2月10日発行　（発行の定日　毎月10日発行）　平成4年7月24日第3種郵便物認可

香教連

香川県教職員連盟機関誌
発行所：香川県教職員連盟
発行者：安本　薫

〒760-0004
高松市西宝町2丁目4番60号
香川県教育会館602号
TEL (087) 835-2721
FAX (087) 835-2723
http://www.kakyoren.com/
E-mail:info@kakyoren.com

毎月10日発行　定価1部50円
（年間1,000円　送料とも）
会員の購読費は会費の中に含む

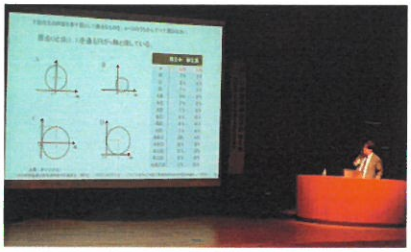
香教連は、結成四十三年を迎えた、子供中心の教育を目指し、健全なる批判力をもつ、県内最大の教職員団体です。

淵上孝氏を迎えて教育講演会開催！

香川県教育文化研究所は香川県小中学校管理職員協議会との共催で毎年開催している教育講演会を二月十日（土）十三時三十分より香川県教育会館ミューズホールにて開催した。今年度は元香川県教育委員会義務教育課課長、高校教育課課長、現在文部科学省初等中等教育局教育課程課長の淵上孝氏をお迎えし「新しい学習指導要領の考え方」と題し、御講演いただいた。

淵上氏は、平成十四年から香川県教育委員会義務教育課課長として二年間、平成十六年から高校教育課課長として一年間、御尽力いただいており、香川の教育に対しても深く理解いただいている。

来年度から新学指導要領の移行期間に入り、先行実施が間近に迫ってきている中、実施するにあたって何が必要になってくるのか、どのように学ぶか（アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善）等について、詳しく話していただいた。



当日は濃霧により高松空港が閉鎖となり、徳島空港に飛行機が到着したため、開始時刻が三十分程度遅れての開催となったが、百名を超える参加者が淵上氏の話に熱心に耳を傾ける姿が見られた。

参加者からは、「分かりやすく説明していただき、来年度からの小学校新学習指導要領の先行実施に向けて理解が深まった。」といった感想が多く挙げられた。

人事に関する要望を県教委に！

香教連は二月一日（木）、香川県庁北館四階四〇一会議室において、香川県教育委員会へ「人事に関する要望」を開催した。香教連からは安本委員長他六名が出席、県教委側は、工代教育長他十二名が対応した。香教連からの主な要望は次の通りである。

○組織的な教育力を充実させるため、学校の実態に応じた人材の増配置。
○若年教員の増加に伴い、結婚等特別な事情がある場合、本人の置かれた状況を勘案した人事異動を行うこと。
○管理面接において各自の勤務地域について確認するとともに、地域間異動の経験を考慮した人事異動とすること。
○校種間異動について、管理面接等で確認をしっかりと行い、本人の意思を尊重した人事異動とすること。
○公立学校教員採用選考試験において、講師に対する特別選考の継続と優秀な人材の確保。
○小学校英語の実施にあたり、各校への英語専科教員の配置や中学校への接続を含めた学校間の連携の取組を実現していくための小中学校英語教員の増配置の推進。

これらの要望について、久保義務教育課課長より丁寧な回答があった後、最後に工代教育長からは、「先生方が意欲をもって教育活動に取り組めるような人事異動・体制づくりに向け、努力していきたい。」とお言葉をいただいた。

また、十二月に会員の皆様に提出していただいた会員票を元に一人一人の異動希望をまとめ、地域をまたぐ異動希望は香教連が県教委、各教育事務所に。地域内での異動希望や強い留任希望等については、各単組が各教育事務所、各市町教育委員会に確実にお伝えしている。今後も先生方のライフプランを考えた人事異動となるよう、要望を続けていく。

全日教連第七十八回評議員会開催

二月四日（日）、全日本教職員連盟第七十八回評議員会が都市センターホテルで開催された。香教連からは、安本薫委員長、真鍋昌子副委員長の二名が出席した。

真鍋昌子香教連副委員長が運営委員を務め、今年度の活動経過報告や成果、来年度の活動方針、行事計画などの議案が審議された。組織の強化・拡大の状況や昨今の教育課題についても評議員から質問があり、熱心な議論がなされた。全日教連は、これらの教育課題に対し、国の動向を見ながら、全日教連としての考え方をまとめ、提案していくとした。最後に本年度をもって退任する井上真登事務局長をはじめ、全日教連役員が紹介され、その労をねぎらった。

メトロノーム

上記に掲載している「人事に関する要望」が今年度最後の香教連の要望活動となった。我々香教連は、毎年十回程度、県知事・県議会・県人事委員会・県教育委員会等に会員の要望や学校現場の声を届けている▲香教連は職員団体である。だからこそ交渉権があり、教育現場や会員一人一人の声を届けることができる。現在の給与・勤務条件に至ったのは、これまで多くの先輩教職員が活動してきた成果である。香教連が声を上げることで、教育制度や施策についても大きな影響を与え、変革してきた経緯もある。しかし、このことをどれだけの教職員がご存知だろうか▲現在、職員団体に加入していない先生方も多く見られ、組織離れが進んでいる。特に若年の教職員の加入率が低くなっている▲今後も香教連は教育専門職として自らの資質を向上させ、「子供たちのために」全力を尽くす所存である。しかし一方で、働き方改革や来年度からの新学習指導要領の先行実施に伴う教育環境の整備や人材の確保等の課題もあると感じる。現場の声を届けるためにも職員団体は必要不可欠である。香教連という組織の大切さを多くの方に知ってもらえるよう、我々は努力を続けていく。（薫）